

## 1 はじめに

今回、国後島を訪問する機会を得て、「見るもの、聞くこと」全てが感動として鮮明に心に残った。

訪問前は、「ロシア語が分からないのに大丈夫か」「四島の現状についての歴史的背景と経過への認識不足で大丈夫か」と、不安な面もあった。しかし、北方領土問題対策協会の配慮でロシア語講座や北方領土学習会のプログラムが組まれており、にわか勉強ではあったがとても有意義であった。

## 2 結団式:根室グランドホテル 一身の引き締まる思い

今回の訪問団員63名とのこと。北海道から沖縄まで全国からの参加である。鈴木健二根室教育局長より激励のことばをいただく。また、北対協の三船正治課長からも事業の主旨を聞く。『教材を探してきてください。』『観光ではありません。領土問題については、日本人として毅然とした態度で日本の領土であることを・・・』ということばに身が引き締まる思いがした。

どうして「ビザなし渡航」できるのか？自分の考えでは、視察団ということで配慮されているのだと思っていた。実は、パスポートやビザが必要となると、北方領土を日本国外と認めることになる。北方領土は日本の領土であり、パスポートやビザは必要ない、という立場をきちんと主張しているのだとのこと。納得、納得。



ビザなし渡航船「コーラルホワイト号」

## 9月10日(金)天候:くもりのち雨

### 3 事前研修会第1部:千島会館 一生まれ故郷に行きたい！一

国後島出身の市川清寿氏の「元島民が語る北方領土一島に思いを寄せて一」と題した講話を聞く。

国後島での生活の様子を懐かしそうに、そして楽しそうに話している姿と、以前にビザなし渡航で国後島へ行ったが住んでいた地区への立ち入りは禁じられ、在住地の見える丘に墓標を立てて祖先の霊を供養してきたという話に、目頭が熱くなる思いがした。

### 4 根室港出港 12:25 一船酔いが心配一

いよいよ国後島へ。雲がどんよりとしていて風も結構ある。

船酔いが心配だ。

ともあれ、乗船し根室市長はじめ元島民の方々の見送りを受けながら出港した。

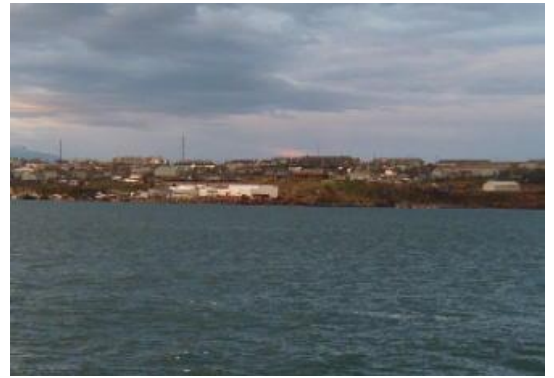
13:35に中間点(北緯43度28分 東経145度46分)を通過。もともと北方領土は日本の領土なので国境は存在しない。しかし、現在ロシアが管理している水域と日本が管理している水域の境界線を中間点と呼んでいる。ここにも、領土問題の難しさがある。自分はロシアとの国境が地図によって異なるという認識であったが。



国後島

さらに、国後島の現地時間との2時間の時差も生じているので、時計の針を進める。15:35とする。  
(以後、現地時間で記録)

甲板からは、国後島が見え始めている。船は国後島の南側を島沿いに進む。すごく近いのに驚いた。19:00目的地の古釜布(ふるかまっぷ)＝ユジノクリリスク湾に到着。錨を下ろして入域準備をする。航行時間は5時間足らずである。



国後島(古釜布)

## 5 国後島上陸 20:10 -北方領土に記念すべき一步を-

19:15上陸用のはしけが横付けされる。はしけといっても老朽化した船である。船から船に移るのに多少不安があった。しかも、雨が降り始めて足下が滑る状況である。20:00入域手続きを終え、国境警備隊の前を一人一人写真と顔を照合されてはしけに乗り移る。

はしけは、10分ほどで港に着いた。港には朽ち果てた廃船がたくさんあり、港の機能としては大変危険な状態だと感じた。記念すべき一步を記した。

港には、協力して下さる家庭の家族がたくさん出迎えてくれた。島内の移動は全て協力家庭の車に分乗して行く。出迎えの車は全て日本車であった。パジェロとデリカが多い。予想はしていたが、あまりの日本車の多さに驚いた。

## 6 行政府表敬:友好の家 20:50 -ロシア語は早口?-

ヤキーモア・タチヤーナ・ワシェブナ南クリル地区議会議員とスコワチーツイナ・ワレンチーナ・ミハイロブナ総務部長より歓迎のことばをいただく。両氏とも、友好的な態度と言葉で話すが、『我がユジノクリリスク・・・』と北方領土はロシアの領土であると意識して話しているのが印象的であり、住んでいる立場からは当然の言葉と感じた。



友好の家



友好の家の周辺

## 7 事前研修会第2部:友好の家 21:35 -知らなかった-

茅原郁生拓殖大学教授より「国際情勢からみた島の領有権について」と題して講話を1時間あまり聞く。様々な角度から国境について考えることが大切であるということはよく分かるが、自分は歴史的背景と条約から北方領土の範囲を認識することを勉強しなくてはならないと感じた。北方領土全島の名前さえ十分に知らないのだから。

## 9月11日(土)天候:晴

## 8 起床 7:00 -天候は?バッチリ!-

目が覚めてまず天候が気にかかった。快晴である。予想気温も23度と例年の7月下旬から8月上旬

の気温だそうだ。今年は、国後島も異常気象現象で降水量が少なく暑い日が続いたとのこと。そのため、川の水量が少なくサケ・マスの遡上がほとんどなく水産加工も大打撃を受けたとのこと。例年なら本土からアルバイトの学生がたくさん島を訪れ缶詰工場が活気にわいているのだが、今年は閑散としているようである。

### 9 日本車は優秀？ —私のデリカも高級車？—

島内の移動は全て協力家庭の車を利用するが、私の班(北海道帯広第四中学校教諭・岩手県一関教育事務所指導主事・中の3人)を担当してくれるのは、クリスティーナさん。

車はパジェロである。島内にはガソリンがなく、ディーゼル車しか走っていない。ほとんどが日本から持ち込んだ中古車である。中には、商店の名前がついたままのトラックやフロントガラスにひびがはいった車も現役として走っている。島内で重宝される車の条件は、ディーゼル車であることが必須となる。さらに、寒冷地仕様で四輪駆動ならもっとよし。私の愛車デリカも将来この島で再スタートするのかなとも思った。

島内でロシア製の車に乗っているのは、わずか1人だとのこと。彼は、自然保護センター所長で愛国心が強いとのこと。島内で車を所有できる家庭は裕福な方だそうだ。ちなみに、デリカあたりで日本円で10~20万円くらいとのこと。

### 10 郷土史博物館視察 9:15~9:55 —これが博物館？—

博物館といってもアパート内の8畳間3部屋に、島内の「動植物」「地質」「海洋生物」のコーナーに分けて標本等を展示したものである。維持管理の費用が不足しているらしく、標本・剥製はかなり痛んでいる。数値的なデータも30年以上前のものである。

しかし、館長は誇らしげに説明して下さる。島内でも環境破壊が進んでおり、「シマフクロウ」は絶滅の危機にあるとのこと。開発が進まなくても環境破壊が進むことに疑問を感じた。

### 11 ベーロチカ幼稚園視察 10:05~10:35 —遊具がほとんどない！—

ワドネワ・ワレンチーナ・フォードロブ園長代行の案内で施設を見学する。土曜日で子どもたちは登園していないが、近所の子どもが来ていた。将来の夢を聞いたところ、「警察官」「運転手」としっかり答えた。小さいながらも自分の将来を語ることのできる子どもたちに思わず拍手。

施設設備とすれば、かなり厳しい状況である。

### 12 古釜布中学校視察 10:40~11:15 —担任の個性重視—

時間がないということで、駆け足で校内をまわる。案内して下さったヤゴジン・ウ ラジーミル・ワリシエビッチ校長も早口でまくしたてるので何を言っているのか分からない。ゆっくりでもロシア語は全く分からないのだが。

施設はかなり老朽化しており、内装はほとんどコンクリートの打ちっ放しである。教室は、担任の個性で様々な色の壁になっている。机と椅子も壁の色に合わせて塗ってある。9月から新学期が始まるので先生方は準備におわれていた。校長先生以外はほとんど女性なので理由を聞いてみたところ、給料が安いので男性にとっては魅力がないそうだ。月給は11000ルーブル(公称)だそうだ。高いのか安いのかよく分からないが、アパートの家賃3000ルーブルと比較すると・・・。

### 13 意見交換会:行政府ホール 11:20~13:10 —島内には領土問題は存在しない？—

島内の教育関係者との意見交換ということで、少々緊張して臨む。領土問題については慎重に言葉

を選ばなければいけないので。しかし、国後島内の教育事情について説明の後、質問コーナーでは、領土問題は話題にならず。

#### [訪問団からの主な質問]

①9月に新学期が始まるが、進級制度はどうなっているか。

→学年末の成績が5段階で出され2は追試を受ける。ただし、2が三つ以上あると留年となる。

②学校内に成績優秀者として写真が張り出してあったが、成績不振の児童生徒に対してはどのような指導をしているのか。※私が質問

→最近、保護者からの相談がととも増えている。内容の多くは、成績不振を改善するために家庭教師をつければよいかというもの。我々教師は、放課後指導したりすることはあまりない。

教師の多くは、年金が支給される25年間勤務を目標にしており、学習指導や生徒指導についてはあまり細かく対応していないように感じられた。

③オリンピックがあったが、学校で何か教えたか。

→試合はたくさん見せた。クラブ活動に結びつけて。ただ、設備が不足している。

④ロシアにおける「誇りをもたせる教育(愛国心)」はどのようにしているか。

→歴史や国旗、国歌、憲法を通して指導している。

#### [島内の教師からの主な質問]

①日本では児童生徒の健康管理や健診をどのようにしているか。

②経済的に困窮している家庭の児童生徒に対してどのような支援をしているか。

ここまでは、和やかにすすめられていたが、同行したジャパンタイムズの記者からの質問で会場が張りつめた雰囲気となる。

#### [ジャパンタイムズ記者の質問]

①ロシアでは北方領土問題をどのように教えているか。

②先日の小泉首相の北方領土視察をどう見ているか。

→国後島の子供たちにとって北方領土問題は存在しない。なぜなら、領土問題は政治的問題であり、教育現場の問題ではない。したがって、小泉首相の視察についても学校で取り上げていない。回答に対して、日本側から意外な回答だと反論意見が出たが、学校現場では北方領土問題がないと押し切られる。最後は、カチューシャをロシア語と日本語交互に大合唱。熱くこみあげてくるものがあった。

#### 14 アリゲル湖・ニキシロ湖視察 15:05~15:40

—知床半島が目の前に！トリカブトもある！！—

湖では、泳いでいる人たちがいた。湖そのものは見晴らしのよい場所にあるというだけで 特別に変わったところではない。国後島のオホーツク海側に面している。海岸の向こうに島が見えた。尋ねると、なんと知床半島とのこと。すぐ目の前に見える。カメラ代わりに携帯電話を持ってきていた団員が確認するとアンテナが立っている。

知床半島までは18キロしかはなれていない。しんきろうロードから能登半島を見るのより近い。



案内してくれたクリスチーナさんと

湖の道ばたにトリカブトの花が咲いていた。驚きである。自然が残っているのではなく、誰も手を加えていないといった方がよいかも。

#### 15 南クリル地区中央図書館視察・「ロクニ」クラブとの意見交換 16:10～16:50

##### ー芭蕉・蕪村は分かるけど、侍・舞子は？ー

サビーロワ・ニーナ・パブロブナ館長が熱心に案内してくれる。玄関ホールには北海道の小学校の児童の作品が展示してある。蔵書はさほど多くないが、「日本コーナー」もある。そこには、ロシア語に翻訳された松尾芭蕉や与謝蕪村の書物がある。国後の人は日本の短歌や俳句に興味をもっているとのこと。しかし、日本文化を紹介する書物の表紙に侍や舞子が描かれているのが気にかかった。

館長は親日派で「ロクニ」クラブの代表も務めている。ロ＝ロシア、ク＝国後、ニ＝日本の頭文字である。メンバーは週1回、日本語講座で日本語を練習している。意見交換では、日本語を子供たちに教える教材用の書籍があればよいと訴えていた。



図書館の日本コーナー

#### 16 ロシア語講座: 友好の家 17:05～17:35

##### ー使えるのはズドラーストヴィチェとスパシーバのみー

ホームビジットを前に最後の悪あがき。ロシア語での会話の練習である。これから訪れる家庭では、夕食をいただきながら歓談することになる。それぞれの家庭にグループ分けされる。

団員のほとんどは、不安と期待の入り交じった顔で練習している。私はというと、ウオッカでの乾杯の仕方を念入りに確認する。ロシアでは、勝手に飲んではいけないとのこと。「〇〇に乾杯！」と言って飲むそうだ。

『ザ フストレーチュー カンパイ！＝出会いに乾杯！』しっかりと頭にいれた。あとは、何とかなるだろう。過去の経験から・・・。

#### 17 ホームビジット: イリーナさん宅 17:50～23:15

##### ー受け入れ辞退家庭の出家！小泉首相視察←731部隊ー

今回の視察の直前に、予定されていたホームビジット先の家庭から受け入れ辞退が数軒あったとのこと。理由は、小泉首相が北方領土視察した9月2日はロシアにとっては戦勝記念日にあたり、ロシアを刺激したとのこと。その報復ともいべきテレビで日露戦争当時、日本軍の731部隊のロシア兵捕虜を人体実験に使う生物化学兵器を開発したドキュメントを放映したそうである。それをみた島民は日本人に対してよい印象をもてなくて、受け入れを辞退したとのこと。

我々(神奈川県教育庁教育部義務教育課指導主事・静岡県小笠町中学校教諭・中の3人)の訪問先は、カザフスタンから島内に来ている自然保護区職員のネベドムスカヤ・イリーナ・アレクサンドロブナさん(女性＝34才)宅。言葉が通じないので心配したが、彼女は英語も日本語もかなり話せる。したがって、せっかく練習したロシア語は使わず、英語と日本語で会話する。私にとっては、英語もきびしいのだが、キッチンに「いりこだし」「本だし」の箱があり、それを見つけたとたん安心。細かい部分は、会



ホームビジット家庭

話集を指さして意志を伝える。

女性一人暮らしということで、ウオッカでの乾杯もなく静かに食事が進む。ワインと サーモン、ボルシチ、コキール、ワカメサラダ……。素朴なロシア家庭料理。話題は 自然環境保護のことが中心。

4人で楽しいひとときを過ごしあつという間に時間が過ぎた。お別れのあいさつも「さようなら。」と日本語。気疲れでへとへと。



アパート

## 9月12日(日)天候:晴

### 18 メンデレーエフ空港視察 9:40~10:05 -滑走路に軍用機-

空港といっても、草だらけ。コンクリートもがたがた。管制塔らしきものもなく、空港としてのゲートもタラップもない。週一便ハバロフスクとの定期便があるとのこと。現在は小型のジェット機しか利用できないが、滑走路を整備して将来はボーイング747クラスにも対応できるようにしたいとのこと。滑走路に軍用機が駐機していた。

### 19 墓参:東沸墓地 10:15~10:40 -思わず合掌-

かつて島内に住んでいた日本人の墓地は、ロシア人が入植したときに日本の色を消し去るために、墓石を家の土台に敷いたとのこと。なんとむごい話だろう。その後、ビザなし交流で墓参が始まると、友好的な島民が墓地跡をホタテの貝殻で囲み花などを供えるようになったという。

我々が訪れた墓地も、きちんと草が刈られていた。日本から持ち込んだ墓標がある墓もあった。自分の祖先ではないが、思わず手を合わせた。

今になって思えば、自分の妻の母はどこの島か分からないが、北方四島の小学校で勉強したと聞いたことがある。ひょっとしたら……。

### 20 愛の木(樫の木)視察 10:55~11:00 -誰が始めたの?-

道ばたにタオルや下着、ズボンなどがくぐられた樫の木がある。樹齢1000年といわれているが、本当だろうか。誰が始めたか、願いを込めて下着などをくぐるのだそうだ。団員の一人が、タオルをくぐる。みんなからどんな願いを込めたのか聞かれた。みんなは、「北方領土が平和的に日本に返還されるようにだよ」と尋ねると、「宝くじが当たりますように」との返事。団員一同大爆笑。

どこの国や地域にも、願掛けがあるんだな。

### 21 「滝の壁」視察 11:10~11:20 -どこに滝があるの?-

滝の壁というくらいだから、幅の広い落差の大きな滝かと思いきや、どこにも水が流れていない。滝の壁とは、風化と波の浸食で大きな滝のように見える海岸線の断崖のことであった。展望台も何の手入れもしてなく、足元が風化して危険な状態である。自然のままとはいえ、足元は100メートル以上の絶壁である。観光地ではないのだからこれでいいのかも。

### 22 エコハイキング 11:50~12:40 -やっぱり長靴が必要!-

自然公園の山道を散策する。胸元まで生い茂る草木をかき分けての散策。漆の木があり注意の看板がある。足元はどろどろにぬかるんでいる。長靴の出番だが持参していない。虫除けスプレーは有効だった。

### 23 子供芸術学校(音楽学校)視察 15:05~15:50 -きろろだ!-

時間が少しあったので、団員の中で音楽の教師であり一番若い北海道の先生がステージ上のピアノを弾いて会場を大いに盛り上げる。ロシアの人たちを前に堂々とピアノを弾く姿に拍手喝采。ロシアの子供たちも苦笑い。

リュドミーラ・コズロワ校長より説明を受ける。学校では音楽等ないので、情操教育として希望者が、声楽、ピアノ、アコーディオン等を学んでいるとのこと。

子供たちが、ピアノやアコーディオン演奏や歌を聴かせてくれた。ちょっとしたミニコンサートである。みんな感情を込めるのがとてもうまい。驚いたことにロシア民謡のほかに、KIROROの「ベストフレンド」を二人できれいに歌いあげた。

### 24 商店視察 16:00~16:50 -計り売りが健在-

員一人一人が450ルーブル(日本円で2000円)をにぎりしめ、買い物へ。

以外と買うものがない。物価を比較するとかなり安く感じる。シャンパンフルボトル 120ルーブル、さけ缶25ルーブル、豚肉2キロ80ルーブル。

驚いたのは、チョコレートやキャンディを計り売りしていることであった。

### 25 夕食交流会:友好の家 17:10~18:00 -最後の食事豪華?-

区長さんや議員さんと最後の食事会。さすがに豪華?サケの香草焼きとハンバーグが テーブルの上に。しかも、ワインとウオッカ、果物も。でも、あいさつと乾杯で時間が なくすぐに帰りの準備。もったいない。

### 26 港での別れ 18:40 -涙・涙 いつまでも忘れない-

港で、国境警備隊の管理するはしけに移乗する。栈橋にはたくさんの島民が見送りに来ている。ホームビジット先の人々、訪問機関の人々、車を運転してくれた人々。わずかであったが別れは辛い。ほほを冷たいものが流れる。「忘れないよ。いつかまた来るよ。」とは言うものの、再び島に来ることは容易なことではないことを知っているだけによけいに辛い。

クリスチーナさん、イリーナさんも来ている。おみやげをいただく。ただただ感謝。

### 27 反省会:コーラルホワイト 21:00~22:00 -団長からの問いかけ-

今回の訪問を終えて、その成果をそれぞれが各県でどのように生かすのか、どんな活動をするのか、団長は団員に問いかけた。確かに観光ではない。各班のホームビジットの様子を伝え合う。どの班も大歓迎されて満足の様子である。しかし、団長の問いかけはもっと奥深いところにある。私は、今回の訪問は「自分の目で見て、自分の耳で聞き、体全体で感じた国後島のことを正確に伝えること」、「各県の県民会議がどのような活動をしているのかを的確につかむこと」、「学校現場では、北方領土返還の授業ではなく領土問題が存在していることとその歴史的背景を正確に教えること」が大切であると語る。

### 28 中間点通過 22:45(日本時間20:45) -根室の町の灯りが見える-

中間点を通過して日本が管理する水域にはいる。甲板に出てみると遠くに根室の灯りが見える。近いのに…。複雑な思いがした。

### 29 根室冲着 21:40